

ヤクシカによる森林生態系への影響の現状

1 全島的な状況

島内のほぼ全域において林床植生の大幅な減少とそれに伴う絶滅危惧種の消失が顕在化している。

西部地域等のヤクシカが高密度化した地域では、これまで忌避植物とされてきたコシダ、イヌガシ、センリョウ等も摂食されるようになり、嗜好性の植物が摂食によりほぼ完全に消失し、不嗜好性のものも摂食されるようになってきたものと考えられる。

長期に亘り人的影響を受けてきた二次林と原生的な森林では下層植生へのヤクシカの摂食圧の影響が異なり、原生林ではシカの摂食圧による影響が大きい。

2 地域別の状況

(西部)

- ・ 10年前と比較すると下層植生の構成種が変化してきており、シカの忌避植物であるアリドウシ、ハスノハカズラ、シキミ等がヤクシカの摂食を免れ占有するなど、植生の単純化が進み森林生態系における種の多様性が損なわれる状況となっている。特に標高0m～400m付近にかけ顕著である。
- また、シカの届くところに生育するサクララン・シラタマカズラ等のつる植物も摂食による被害を受けている。
- ・ 西部林道付近では、カシノナガキクイムシの被害木（マテバシイ等）が萌芽を発生させているがヤクシカの摂食を受け、萌芽による更新が阻害されている。

(東北部)

- ・ 天文の森・小花山・白谷雲水峡の固定プロットでは30年間に林床植生の被度が50%以下に減少し、絶滅危惧種が消失するなど林床植生や植物群落の消失とともに希少種を含む絶滅危惧種が消失している。
- 一方でシカの忌避植物であるホウロクイチゴ、シキミ、イヌガシ等がヤクシカの摂食を免れ占有するなど、植生の単純化が進み森林生態系における種の多様性が損なわれる状況となっている。
- ・ 愛子岳登山道では、カシノナガキクイムシの被害木（スダジイ等）が萌芽を発生させているがヤクシカの摂食を受け、萌芽による更新が阻害されている。

(南部)

- ・ 湯泊・尾之間登山道では、他の地域では少なくなったイヌビワ・ボチョウジ・ヤクシマアジサイ・アオツリバナ等の低木や、ヤクシマシュスラン・ダルマエビネ等の草本がシカに摂食されずに残されている。

また、カシノナガキクイムシの被害木（スダジイ等）が萌芽を発生させているが、ヤクシカによる摂食は他の地域程は受けていない。特にモッチョム岳登山道では、ヤクシカによる摂食はほとんど見られない。

(安房川・荒川上流)

- 天文の森では、30年間に林床植生の被度が50%以下に減少し、絶滅危惧種が消失した。

(奥山)

- 花之江河・小花之江河では、ヤクシカによる摂食で、ホシクサ類の減少・小型化が起きている。
- 高塚山では、下層植生の種数が減少している。
- 奥岳のヤクシマダケ帯では、ヤクシマダケへの食害が見られるようになってきた